

週日の説教

金 大烈 神父 2009年5月14日(木)

《イエス様の愛にとどまりましょう》

今日の福音(ヨハネ 15・9 - 17)は、私が個人的に一番好きな箇所です。

この中には、イエス様が私たちにおっしゃった全てのことがまとめられています。今、私の口を通して読まれた内容を見たら、いろいろなテーマが入っていますね。最初に出てきたのは、「わたしの愛にとどまりなさい」。次は、「喜び」の話、「友」の話、「互いに愛し合いなさい」いう掟について。それから「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。」「父に願うものは何でも与えられる」という言葉。そして結論としてもう一度、「互いに愛し合いなさい。」という言葉が出てきます。

このテーマだけで、たくさん話がありますが、今日一つだけ申しあげたいのは、「私の愛にとどまりなさい」という言葉についてです。

私たちは喜びを求めています。本能的な喜び、精神的な喜び、そしてもっとレベルの高い霊的な喜び、を。結局信仰者が最後に求めなければならないのは、この霊的な喜びです。霊的な喜びというのは、体験ができなければ絶対分らない喜びです。では、霊的な喜びの条件は何でしょうか。『イエス様の愛にとどまること』です。私たちが、これを完璧に納得して行うことができれば、それだけで天国になるでしょう。しかし私たちは、いろいろな言い訳をして、イエス様の名前を使いながらも、愛とは関係ない別のことに力を入れてしまう場合が結構あると思います。

皆様、「信仰の生活をしているのになぜ喜びがないのか」と思われる方は、イエス様の別なことにとどまらずに、イエス様のおっしゃった愛について黙想しながら、その中にとどまろうと努力してみてください。そうすれば、全てが何とか解決されます。そこから感じられる味、喜びを味あわなければ、まだゼロから始めなければならないと思います。

イエス様のいろいろな掟の話がありましたが、イエス様の愛とは何でしょうか。それは、『自分がないから自分がある』愛です。私たちはいつも「何かのために」、「何か得るために」愛を実践しているのです。これが人間的な愛です。妻をもらうときにも夫を決めるときにも、「その人を選んだら自分に利益があるのだろう、よいことがあるのだろう」と思って、その利益のために相手を選びます。しかしキリストはそれを拒みました。相手そのものに全てをかけました。相手が中心になりました。もちろんこれができる人は、世の中に何人もいないでしょう。しかし、そのくらいの心を持つことができれば、イエス様が約束なさった喜びの味を分かんと思います。

皆様の愛というものについてよく振り返ってみましょう。そこには必ず皆様が力強く立てているものがあると思います。しかし、キリストの愛というものは自分をなくして相手を生かせる愛でした。その愛について反省してみますと、私は罪深いものです、哀れんでください、という祈りが自然に出るのではないかと思います。

条件はただ一つです。キリストの愛にとどまろうとする心が皆様に喜びを与えます。

ありがとうございました。